

# 第57回 宇部市廃棄物減量等推進審議会議事録

・日時 平成31年3月14日(木) 18時00分から 20時15分

・場所 宇部市ときわ湖水ホール ミーティングルーム

## ・出席委員

(会長) 関 根 雅 彦	
中 野 陽 一	茂 山 守
有 部 正 治	阿 部 正 和
新 谷 弘 昌	菅 野 弥 生
高 松 克 志	藤 本 米 子
山 根 好 子	角 野 い づ み

## ・欠席委員

安 井 美 智	富 岡 英 雄
吉 本 信 子	河 村 竜 太
櫻 井 菜 穂 子	隅 田 典 代 子
田 辺 亜 由 美	森 田 律 子

## ・事務局

市民環境部長	藤 崎 昌 治
市民環境部理事	平 山 純 子
廃棄物対策課長	上 田 康 次 郎
環境保全センター施設課長	長 岡 哲 雄
環境保全センター施設主幹	川 崎 一 利
廃棄物対策副課長	河 口 育 太
廃棄物対策課ごみ減量推進係長	河 村 真 彦
廃棄物対策課ごみ減量推進係主査	池 田 忍
廃棄物対策課ごみ減量推進係主任	西 田 涼 子
廃棄物対策課ごみ減量推進係	大 田 翔 子

## ・資料

- 1-1 これまでのごみ減量の取組
- 1-2 平成30年度(4~1月)総括表
- 1-3 紙ごみの組成
- 2-1 ごみ減量モデル事業の取組について~古着・古布回収モデル事業~
- 2-2 ごみ減量モデル事業の取組について~宇部市資源物地域拠点回収モデル事業~  
(案)資源物地域拠点回収事業チラシ
- 3 平成31年度のごみ減量の取組について

## ・次第・議事録

- 1 市民環境部長あいさつ
- 2 宇部市廃棄物減量等推進審議会 会長あいさつ

### 3 議題

- (1) 平成30年度のごみ減量の取組とごみ排出量の状況について
- (2) ごみ減量モデル事業の取組状況について
- (3) 平成31年度のごみ減量の取組について

会長	本日の議題の、ひとつめ「平成30年度のごみ減量の取組とごみ排出量の状況」について事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1-1「これまでのごみ減量の取組」、資料1-2「平成30年度（4～1月）総括表」、資料1-3「紙ごみの組成」により説明
会長	今、説明いただいた資料についての質問はないか。
委員	人口が減ったのは、老人が減ったのか、若い人が市外に就職したのか。1,500人ほど減ったということは、必然的にゴミも減っていく。人口減少とごみの減少の比率はぴったり合うのか。それとも今まで取り組んでいるごみ減量で人口減少とは別にゴミが減っているのか、というのをお聞きしたい。
事務局	資料1-2の一人一日あたりのごみの排出量であるが、確かに人口が減少するとそれと比例して、ごみの量も減ってくると考えられる。これによると、人口減以上に減っているということが言えるので、ごみ減量の取り組みをすることで、その成果が出ていると考えている。
会長	どの年齢の人口が減ったのかという質問もあったが。
事務局	年齢層については、年度で締めないと分からないが、老人人口は減らない、むしろ増えている。若年層が減っているというのが傾向である。 ごみが減ったか減らないかについては、一般的には人口が減ったら総排出量は減ってくる。一人一日当たりの排出量で見ていくことで、人口に関係なく、どれだけ減ったかを見ることができる。
委員	自治会古紙回収の際には、補助金をつけていると思うが、まだあるのか？古着とかペットボトルとか、その他のリサイクルが可能なものに関しては、助成金をつけていくのか、現状のまま、古紙だけ助成金をつけてやっていくのかお聞きしたい。
事務局	子ども会等の集団回収、廃品回収については、1キロ当たり5円の助成金を出している。これは、古紙だけでなく、鉄類、缶、びん、古着、古繊維を含めて、従来通り助成金が出ている。ペットボトルについては、対象外になっている。

	<p>また、今後も、当面、この集団回収の助成金については、継続をしていく予定にしている。</p>
委員	<p>新しい品目について、助成金を出す予定はあるのか。現状で行くのか、リサイクル可能なものに関して今後、品目を増やしていくのか。</p>
事務局	<p>集団回収については、品目を指定しており、リサイクル可能なものと言うと、ペットボトルとか紙製容器包装などがあるが、昔から資源化できるものや、収集するのに許可がいらぬ品目、特定品目があるので、それに沿ってやっていただく。方向性については、回収品目にペットボトルが加わるとか、それに対して助成金を出すということは考えていない。</p> <p>補足だが、品目は増やせないといったが、集団回収が子供の減少で、子ども会も減っていて、回収量が増えていないということで、後ほど説明するが、市では、新町と黒石にある拠点回収施設の地域バージョンを作って、古紙やびんなどを、いつでも出せるようにして、その収入を地域の収入にしていくというような制度を考えている。</p>
委員	<p>いち主婦の声であるが、雑紙の収集が始まって、とてもいいなと思っている。今年度からなので、この数字が絶対に出てくるし、それ以上に出てくるのかなと思っていた。しかし、今後この数字が増えるかは疑問。家庭に送られてくるものには限りがある。インターネット社会になってきて、随分紙も減った。今後この雑紙の回収をどのように増やしていくのか。</p>
事務局	<p>雑紙については、8月から増やしたが、これは家庭系のこと。資料の1-3で示している、組成から紙ごみの推計値が減ってきているのには、事業系も含まれている。事業所、なかでも多量排出所以外の中小企業について、積極的に啓発し、紙ごみについて民で処分してもらおうようお願いする。多量排出については今までもやってきたが、今後数の多い中小企業の啓発をすることで、少しでも目標値に近づけていきたい。</p>
会長	<p>どうしたらもっと増やせるのか、ここで審議してもらいたいというところであろう。後でまとめて審議するために、先に報告を聞くようにする。</p> <p>次に、「ごみ減量モデル事業の取組状況について」報告をお願いする。</p>
事務局	<p>資料2-1「ごみ減量モデル事業の取組について～古着・古布回収モデル事業～」、資料2-2「ごみ減量モデル事業の取組について～宇部市資源物地域拠点回収モデル事業～」により説明</p>
会長	<p>最初に確認をしたいのだが、1番目の資料2-1のモデル事業と書いてあるが、この事業に関しは、そのモデル事業を別の場所で展開していくためのサポートを市が行うとか、そういう計画は、ないのか。</p>

事務局	<p>古着・古布の回収モデル事業については、各校区ふれあいセンターに設置している回収ボックスに出された古着の回収量に応じて、売上金を地域に分配するという事業で、来年度は全校区で行う予定。</p> <p>古着販売の、バザーについても、西岐波で取り組まれていることを、各校区にPRして、同じように取り組んでもらえるところを募集する。もし、やるところがあれば、ノウハウをお教えして、サポートはしていきたい。</p>
会長	<p>つまり、それぞれの校区にふれあいセンターみたいなものがある、そこに集める仕組みはすでにあるので、そこに集まって出た利益は校区に還元するという取り組みを来年度実施するということか。</p>
事務局	<p>今回はモデル事業。古着・古布回収ボックスというのは、それぞれの校区のふれあいセンターにもともと市が設置していた。だから、そこに持っていけばリサイクルされるという仕組みがあった。それプラス、リユースボックス、古着がまだ新しいから使えるというボックスを今回、モデル地区に市が設置した。そして、地域の方がそこに入れられたものに値段をつけて販売し、地域の収入にした。こういったノウハウを来年度以降、新たに行っていた際にはお伝えできるし、リユースボックスの設置が必要であれば、市が支援するというものである。</p>
会長	<p>なるほど。だから、リユースボックスにたまったものをいかに売るかとか、いかにお金に換えるのかというのは、校区に考えてくれということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。西岐波は、本当に本気で取り組んでいる校区なので、これを全ての校区で行うということは難しいと思う。それぞれの校区で、知恵を出し合って、その校区にあったやり方で、古着・古布の回収量を増やし、地域の収入も増やしていただければと思う。</p>
会長	<p>それから、資料2-2の方は、このような倉庫を3箇所、3校区、応募してくれたところには、設置してあげますというのが来年度の事業ということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。今年度はモデル事業ということで、1校区東岐波の古殿2という自治会が手をあげられた。来年度は本格実施ということで、3校区に、補助金を出す。</p> <p>また助成金については、今年度はモデル事業ということで上限20万だったが、来年度は上限50万の補助金を出す予定にしている。</p>
会長	<p>この資料2-1、資料2-2に関しては、審議する内容がある。資料2-1に関しては、西岐波以外のところで広めていくにあたって、配慮した方がいいことなどについて、また資料2-2に関しては、たくさんの所に手をあげていただくためには、どのように広報していくといいのかということについて意見をいただきたい。資料3とも関係があるようだが、それについては後でまとめてしていただくとして、それ以外の点で資料のご質問はないか。</p>

委員	私も常盤校区の古着・古布の回収ボックスに何度も入れている。私は、洗濯をしているが、リサイクルとなると、どのようにしているのか？洗濯するだけでいいのか心配である。販売となると、貰ったものでも販売できるか、売れるかなど、買う場合は、あんまりしわしわだったら嫌だし、裸で並べられていると困る。
事務局	汚れたまま、というのはさすがに売るのは難しい。基本的に洗濯をしていただきたい。クリーニングまでして下さいという話ではなかった。 西岐波では、ほとんど新品のものが出ている。袖を通していないが小さくなったとか、そういったものを出して下さいと、西岐波ではされている。
委員	それを、お祭り広場で売られているということか。
会長	他になれば、資料3「平成31年度のごみ減量の取組について」説明をお願いします。
事務局	資料3「平成31年度のごみ減量の取組」により説明
会長	ここで、30年度取り組んでこられて、来年度にむけて実施していこうとされている、紙ごみと古着古布、この点に関して、まずは、参考にできるような議論をしたい。今までに話が出てきた中で、紙ごみを減らしたい、一人一日当たり40g減らしたい、しかも家庭系で1500t、事業系で1000t減らしたいということで間違いないか。ご説明の中では、少し減ったということだが、資料1-2の燃やせるごみが1500t減らないといけない。人口も減っているのに、そう簡単な数字じゃない。一人一日あたりの量で見ると、比較しやすい資料にさせていただくと議論しやすいのだけれど。道半ばという声もあったのだけれども、なかなか遠いというのが正直なところ。これからやることで、事業系も大切だが、まずは置いておいて、家庭系のごみの減らし方として雑紙を取り上げて、40グラムを雑紙で減らせるのかということ、それと雑紙を減らすにはどうすればいいのかということ。その点に関して、何かあるか。
委員	雑紙の説明があったが、何が出せて、何が出せないのかというのは、分かっているか。雑紙を出せるということを知らないのが、大きいのではないかな。なおかつ、出してはいけないもの、出すものが、まだはっきり分かってない。市のPRが足りないのではないかと思っている。8月のパンフレットはどういう風に出したのか。
事務局	広報と一緒に全戸に配布した。
委員	回覧ではなく、配ったのだが、ただ配っただけ。ウチでは毎年6月に市の職員に来てもらって、説明をしてもらうが、変わった時は、校区の会議とかに出向いて、説明をすればよかったと思う。

委員	私は、まだ始めたばかりなので数字があがると期待しているが、ある一定の所から伸びなくなるとというのが私の考え。その時、次に目標値の100グラム減らそう、さらに840gまで減らそうというのがあるが、そこまでの数字にするにはどんなことをしていくのか。
委員	それは、雑紙以外でということか。
事務局	資料の最初の方で説明したが、焼却場の燃やせるごみのうち、資源化できる紙ごみというのは、約半分くらいあると言われている。その中で、家庭系であれば、全部で11,000tくらいあると、60パーセント位が推計値で家庭系ではないかと。新聞とか段ボールとか紙製容器というのは、当然分別品目としてあるので、紙製容器は別として、それを月水金の燃やせるごみで出している方は少ないのではないかと推測できる。今まで燃やせるごみでということでも市が案内してきたものが入っている。その数字が占める割合を考えると紙ごみが多いのではないかと考えており、分別を徹底して頂くことで、目標値に近づけていきたい。ただ、周知が行き届いていないというところで、何かいい方法があれば、案をいただきたいと考えている。
会長	今まで、周知は、市報か。
事務局	パンフレット、チラシを作り、全戸配布を行った。それから、8月以降地域の任意の団体、女性団体の会合をリサーチしてこちらから出向き、周知を図ってきた。28団体くらい実施した。しかしながら家庭系の雑誌の増え具合から見ると、これがどれだけ浸透したか、まだ微妙なところ。まだまだ減らせるというか、資源化に回せる量は存在するのではないかと考えている。
会長	広報の仕方が問題というのは、今までもあった。これは新しいことだが（LINEボットが）、決定打になるかどうかは、ちょっと分からない。若い人には受けるのでは・・・
委員	そもそも、なぜこんなことをするのか、こういうのを変えることによって、家庭の一人一人の生活がどういう風になるのか、そのあたりを周知することによって、ごみ分別の意識が変わると思う。学生は、宇部市に住んでいる人以外は4年間しか宇部にいない。ただ環境のためというきれいな言葉では、なかなか行動に移らない。資源化されるということがあったのですが、どういうものになっているか、どのくらい地域の収入になっているのか、一人一人どうプラスになるのか、みたいなものを大きなテーマとして、一人一人に周知していくと行動が変わっていくのかなと思う。
会長	見える化がされていない、フィードバックされていないというのは、考える必要がある。現実的にこういう条件なら出せるのではないのかという意見も、我々委員が言うべきことなのかもしれない。是非、次回に、こんなものを出してくれれば、もう少し頑張れるというものを持ってきていただきたい。

委員	「ごみ分別案内ボット」というのは、良い。ラインは、一人一人が持っているスマホに直接メッセージを送ることができるので、あなたがこうすることで、街が綺麗になるよ、というメッセージを送るのは、送りやすい。紙で全戸に送るよりは早い。打っただけでできる。
会長	若い人にはそれが楽で、いいかも知れない。一方でお年寄りの方には、紙の資料の方がいい。
委員	学生さんの多いところは分別等ができていないということだが、そういった意味でラインを使うということは、確かにすごくいいと思う。
事務局	<p>どうすれば、人が行動を変えるか、あるいはゴミを減らすために協力して頂けるか、また、どうすれば、納得性の高いものをお示し出来るかということで、今までいただいた案が、金額で示してはどうかとか、これだけやれば、これだけ税金が減って、他に回せるそういう見せ方の問題、あるいは伝え方が悪いのではないかという問題、みんなのところまで情報がいってないのではないかとか、そんなことがある。</p> <p>「環境にいいことだからお願いします。」という、なかなか納得を得られないということがあるので、環境教育ということで、小学生・中学生等、各学校に出前事業に行ったりしている。意識を変えるということは、小さいうちからやる必要がある。ここで話するのはより具体的にどうしたらよいかということ、御意見として、いただければと思う。</p>
委員	ばくが、この学校に入って宇部市の歴史を学ぶという授業があった。公害がひどかった時に、市と市民と学者の方と、みんなで議論して、それを解決してきたとあった。このきれいな宇部市に、そういう歴史があって、こういうのをやっていると言っていくがいいと思う。
会長	<p>そういうことを勉強する場合は、それなりにある。結局はあなたのような意識の高い方がいいが、一人一日当たり 40 グラム減少をするには、すべての人が 40 グラムを達成したら簡単だけど、少数の人がやるのならすごい努力が必要になる。</p> <p>全ての人は無理でも、8割の人がするにはどうしたらいいのかということが、実際に効果を出すには大切なこと。</p>
委員	紙ごみの削減のためには、アイスクリームの箱とか、その時のシーズン限定でも良いが、業者をお願いして、「緑と花と彫刻の街宇部を守るために、あなたのごみを分別してください」というメッセージを書いたらどうか。
委員	それは、メーカーに頼むのか
委員	そのとおり。メーカーも協力するという、困難を乗り越えることも大切。

委員	<p>地域の人がごみを捨てる時に見ると、月水金に紙製容器、段ボールも入ることもある。その辺をどういう風にしたらいいかなといつも思っている。なかなかアイデアは浮かばない。最終的に小さな自治会とかが、分別の説明会というのを徹底的にすること。それをしたからといってどの程度というのは分からない。そうすることで理解してもらえないのではないかなと思う。</p> <p>まずは、知ってもらおうというのが一番大事。</p>
会長	<p>メッセージを商品のパッケージにつける、お店の値札とかであれば各商店に配れば、可能かもしれない。自治会の説明会でも、職員を派遣するのは可能かも知れないが、聞いていない。なぜ来てもらっても聞いていないのか。今出たことだけでも議論しだしたらきりが無い。意見が出たことに関しては少なくとも回答、どうするかということを書いて下さいということと言った。その中の有望そうなものについては、もう少し掘り下げて具体化するための障害とかについて話し合えたらいいのではないかな。</p> <p>ここまでで、すでに出てきた話で具体的に話せそうなこととして、古着・古布のモデル事業について議論していただきたい。資料2の方で振り返っていただくと、2-1で、リユースボックスというのは用意したと、これを有効活用して欲しいということで、これに関しては、なにか御意見は。各校区に広めていくにはどうすればいいのかな。・・・紙ごみほど意見は出てこない。</p>
委員	<p>コミュニティっていうのは校区の中の自治会長や各団体長の集まりだが、自治会でまとめるなら簡単でも、校区となるとみんなの意見を聞いてからとなり、なかなか了解を得られない。負担はかからないと言われたが、もっと具体的に、説明をすると話が進むのではないかな。</p>
会長	<p>これは、広報の観点で現状問題点というか、どういう負担があって、どういう問題点があって、どうすればもっと楽にできるのか、というようなことを聞きたいということ。そういうことを次回にお知らせいただけたらどうかと思う。</p>
事務局	<p>このモデル事業というのが、まさにいろんな課題を洗い出すために取り組んだもの。西岐波にはもともと回収ボックスがあって、リユースボックスを設置するだけのものだった。9月スタートで周知して10月からこの間に、御意見や実績をいただいた。</p> <p>これを次につなげていけば、やり方がわかる。拠点回収の方のモデル事業も同じように取り組んで頂きたかったが、スタートが遅れた。どこに設置したらいいとか、いろんな議論があって、地域の中で総意が得られず、9月くらいから話してやっと2月に事業ができるまでになった。本来ならもっと早く始まって、実際にやってみて、どういった問題があってどう解決したかということが欲しかった。</p>
会長	<p>つまり、モデル事業をやっている最中で、情報収集してから、まとめて、最後には校区ごとに説明に行くことを考えていただけたらということか。</p>

委員	地域のコミュニティに回収ボックスを置いていくというのは良いと思うが、学生というのは、家にいる時間があまりなかったり、学校にずっといて勉強していたり、アルバイトして夜中帰って寝るという生活で、地域との係りが薄い。しかし、学生はコミュニティに属していないわけではなく、学校というコミュニティがあるので、回収ボックスを学校に設置してはどうか。
会長	学校自体は事業所扱いでは。
事務局	学生に限って言うと、今言われた、生活で要らなくなったものを地域よりも学校にいる時間が多いので、学校に回収拠点を置くことで、生活上出てきたものを集めたらどうかという意見だと思うが、それは事業所と切り離して整理できる。だが、それが本当に資源化されるとなると、影響が出ると思う。
会長	生協と話をすると良いかもしれない。 今日はどんどん良い意見が出ているので、ぜひ出来ることを少しでも進めて欲しい。
事務局	今、各センター1か所だが、これ1か所に限らないので、学校がある地域を1つの回収拠点と考えると、地域の中の回収拠点ということで事業所と切り離して整理できると思う。
会長	今議論が、古着・古布と同時に地域拠点回収モデルの話にもなっている。併せて(案)、これは、この案を市報とかに挟んで配ろうという原案。これを見て、うちの校区でやろうという気になるかどうかとか、ということを含めて何か議論はないか。
委員	資料2-2には、東岐波古殿自治会、校区が対象でなくて自治会でも対象になるのか。
事務局	これは、モデル事業として実施しているので、単位自治会でOKという話にさせていただいた。助成金も20万までということで。本格実施については、校区が対象ということで考えている。
会長	自治会から校区になると、大きな組織になるから、なかなかますます総意を得るのが難しくなると思う。その中で手を挙げてもらうにはどうするのか。まず、モデル事業をやられたのなら、こんなメリットがありますと書いて、実際どのくらい利益があったのか、書けるのではないか。校区で実現するとなるとなかなか手を上げにくいものか。
委員	あとは、校区のリーダーがどういうふうに捉えるか、である。地域の収入になるというのは、魅力的だが、金額とか、自分たちの負担とかを考えると。
会長	結局どれだけ負担になるのかが分からないので手を出しにくいという点と、魅力である収入がどれくらいになるか分からないからというのが第一で、そこを解決していかないといけないだろうと。

委員	<p>校区単位でとなっているが、自治会では、既にやっている。子供が少なくなってきた子ども会ではもうやっていないが、自治会では、廃品回収でやっている。校区内と言わないで、各自治会でやった人に利益をとする方がやりやすくなるのではないか。</p>
会長	<p>そもそも、このアイデアが出てきたのが自治会でやるのが難しくなっている所にあるので、校区でまとめたいという市側の都合がある。でも身近なところでやった方がやりやすいという市民側の都合もある。今でも、廃品回収の制度を活用して自治会で拠点回収のような取組みをやっているところもある。自治会で助成金を受けて拠点回収をやらせてくれるのならもっとできるというところがあるのなら、そういう方向も有り得るだろう。あるいは、そういう自治会の近くに置いて、他の自治会の人も持ってきて良しとし、仕切った自治会が得をするというのもいいかも知れない。それがいやなら他の自治会も管理を手伝えということ。</p>
委員	<p>地域の収入になるなら良いと思う。同じ町内なら管理が出来る。集団回収ということで、日曜日、月一回の荒ごみの時にやっている。その時は班の当番の人が出て、変なごみがでないように、その時役員が出てチェックを行うなど、かなり手がかかる。それを校区ということになり、四六時中いつ入れてもいいとなると、誰がどう責任をとるのかという問題が出てくる。みんながルールを守ってくれるか。どのくらい負担がかかるかというところ。</p>
会長	<p>このモデル事業をやろうとする問題は、やってくれない自治会があるということにある。その問題を解決できなければ、昔と一緒にということになってしまう。それに対してどうすればいいのかという意見が出れば、市もやりようがあるということだと思ふ。そうすると、できる自治会があって、その自治会が他の所まで面倒をみてやるということはそのコミュニティの中で逆に決められるかどうかという問題になる。それに対して、市がこうすればやりやすいという意見があれば、参考になるのでは。</p>
委員	<p>私も常盤校区の委員を長いことやらせて頂いて様子が少しわかる。自治会単位では、当番制で今の所成り立っている。高齢者が当番はできないと言ってくるし、少子化・人口減少から集団回収の減少、ここに発想があるので、校区の役員としっかりと膝詰めで話すしかない。困っている自治会もあるし、私の所は今のところ大丈夫だが、それも永久ではない。集団回収ができる拠点が校区の中に一つでもあったら、こういう問題は解決していくのではないかと思う。</p>
会長	<p>実際には、それしかないという、いい方法というのは、そう簡単に出てくるものではない。</p>
委員	<p>山口市には、回収施設があったが、写真にあるような倉庫でなくて、この10倍15倍大きい所にゴミが並べてあり、それを業者が回収していた様だった。宇部市の良いところは24時間いつでも搬入できるということであるが、住民に管理を任せるとな</p>

	ると、負担が増えてしまう。管理は業者に任せて、もっと利益になるように、多くの資源が入ってくる方法を考えては。
会長	それについては、可能・不可能ということを次回、回答願いたい。
委員	私は黒石なので、市の拠点回収の施設がある。センターの近くにあり、人の出入りも多く、新町とは違って出し方がめちゃくちゃということはない。収集する業者や、市も少しは楽ではないかと思う。ただし、他の校区で拠点を設けて、管理していくとなると、人を割かないといけなくなるし、いろんな問題が出てくる。実際、黒石の場合は8つの自治会で成り立っているが、例えば神原や恩田などは、50～60の自治会に分かれている。校区でまとまるのか、そんなことできるのかと思う。校区によって状況が全部違うので、まず拠点の場所、誰が管理するのか、どういうふうなかたちで周知をしてもらえるのか、いろんな問題がある。各校区に投げかけてみて、本当にやる気のあるところから具体的に進めていくしかないのでは。
会長	資料2-2に書いてあるのがモデル事業で、今からモデル事業を実際にやろうということであるが、先程から話題になっている、収入なども自治会単位でやられたことしか分からない。自動的に手をあげてもらうのを待っていると出来そうにないので、校区の役員と膝詰めで話して、やっていくしかないということ。 今日は非常に多く意見をいただいた委員もいらっしゃるが、あまり意見を言っておられない委員もいらっしゃるので、今までの拠点の問題、紙ごみの問題、残りの問題も併せて委員お一人お一人から御意見をいただいて、最後にしたい。
委員	食品ロスの削減について私は、家庭では、食品ロスがないようにということに気をつけている。外に食事に出た時も食べきれぬ量だけ注文するようにしている。昨年、同窓会に行ったときに、日頃は気をつけているのに、宴会の場では、食べることが出来なかった。宴会の残された食品、食事の食品ロスはかなり大きいのではないかなと思う。先程「30・10運動」と言われたが、あんまり浸透していなと思う。もっと市民に周知すればいいのでは。
委員	私の校区はマンション・アパートがたくさんある。そこのごみの出し方は本当にひどい。市は、違反ごみというかシールを貼るだけでいいが、班長や役員がそれを分別して出しかえている。この問題は大変。黒石校区はアパート・マンションがまだまだ、増えているので次回の議題にして欲しい。
委員	5点思ったことを言う。1点目、紙を減らすには紙を使わないこと。市の方からアイパッドの普及をしてもらったら少し減る。2点目は、古着の件。高齢者はものを捨てないし、捨てる時は亡くなった時。亡くなった時は保全センターに持ち込む。亡くなる前に古着の活用を周知して、フリマに出してもらったりすると良い。3点目は、フリマの活用。4点目は、LINE。地域に根強いテレビ、ラジオを使って啓発して

	<p>いけば良い。「宇部版メルカリ」とか出来たら、もっと削減できるのではないか。それと 5 点目は、実は私は黒石のアパートに住んでいたが、「このアパートは業者が取りに来るから、何捨ててもいいよ。」と言われていた。結局、先程言われたように色々問題があって、アパートの経営者はごみの回収を業者委託しているのでそこが問題。業者に委託しないで、地域に出すようにしたら分別がしっかりできるし、保全センターの持ち込みが減る。最後に、黒石とか資源回収をされているが、あれはとてもいいこと。色々問題はあるだろうが、回収ボックスの設置をしていけば、ゴミが減って資源を有効活用できると思う。3校区で、1校区五十万でなくて、1校区百万とかプレミアムを付けて設置を促したらどうか。</p>
委員	<p>ホテル旅館飲食業の立場から言わせて頂くと、前回も言ったが、お客様を集客するためのバイキングとか、食べ放題とかでゴミが出るのが現状。その後改善がされたかというところは何の改善もされていない。宴会で食べ物がいっぱい残されたという話もあった。私もホテルで働き始めて 30 年近くになるが、当時よりも今の方が捨てる量が多い。昔は余ったら持って帰ってOKだった。ホテルも折詰を用意して、宴会が終わった後に、持って帰ってもらっていたので捨てる量が少なかった。今、市内の全てのホテルで持ち帰り禁止としている。それは保健所の指導や、その後のリスクを考えてのことだが、そこを上手くできないか。市に対してだけでなく、ホテルに対してもこういうふうになればいいのでは、という御意見も頂きたい。また、今後の取組みのフードバンクについては、たくさん仕入れて使い道がなかったということもあるので、興味がある。</p>
委員	<p>紙ごみだが、8月にパンフレット見た。私はどうしても、あれはだめ、これはだめというところに目が行って、面倒だと思ってしまう。子供が学校から持って帰ってくるプリントも沢山あるので、ゴミ箱の横に紙ごみを入れられるように紙袋をおこうと思う。</p>
委員	<p>資源ごみのことだが、ウチは全部チェックして、「何班の〇〇」と名前を書いて出している。名前があると恥ずかしいので、きちんとする。たまに引っ越してきた人が汚れたものを出しても、チェックして、これは持って帰って下さいということでやっている。生ごみや草木も水分を抜いてから出す。こういうことを自治会で話し合えば良い。あと、古着のことでPRをさせて頂くと、私のメンバーがリサイクルプラザで水曜日と金曜日に古着をリメイクしているが、そこでボランティアを募集している。それとは別に、徳島では45品目分別しているとテレビで見た。細やかにすればもっと資源がでるのではないかと思う。</p>
委員	<p>ごみの分別とかは基本的に善意やボランティア精神というところに支えられている所が多い。意識の高い人達からそれをどう下ろしていくか、難しいと思った。ゴミ問題だが、実際にはコミュニティとの係りが無いのが現状。人を知らない負担ばっ</p>

	<p>かり先に見てしまうので、やれば楽しいとか、どういうふうに連携がとれるかとか、市の仲介、心ある方の仲介によって広めていくのも手なのかなという気がした。</p>
会長	<p>今日は、いっぱい宿題が出た。是非、無駄にしないで、2割でもなんとかしようということを次回やっていけたら良いと思う。とても有意義な時間だった。</p> <p>事務局から何かあるか。無ければ、これで審議会を終わりたい。</p>